

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の障害の状態や特性に応じた指導を通して、それぞれの可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加のための生きる力を育む。	学校整理番号	特7
(2) 現状と課題	自閉症スペクトラム症や発達障害の学習・行動特徴を示す児童生徒、また、身体障害者手帳や精神障害者保健福祉手帳を所持している児童生徒など、障害の状況は多様化しており、障害特性に対応した指導及び自立活動の充実など、一人一人の教育的ニーズに応じた指導が一層求められている。学校経営に当たっては、各関係機関との連携強化を図るとともに、地域の協力、保護者の参画による学校力の向上に努めている。	学校名	青森県立青森第二養護学校
(3) 重点目標	1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実 2 キャリア発達を促す指導の充実 3 地域と連携・協働した活動の推進 4 連帯と協力による学校運営の推進	対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱
(4) 結果の公表	・保護者に対して、学部参観日に学校評価結果について資料を配付し、説明した。 ・ホームページに掲載している評価結果を更新する予定である。	自己評価実施日	令和5年12月8日(金)
		学校関係者評価実施日	令和6年2月2日(金)
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	学校運営協議会委員8名 保護者1名、地域及び地域住民2名、 児童養護施設職員1名、 実習・進路先施設職員1名、青森市保健所職員1名、 学識経験者1名 元教頭1名

自 己 評 価				学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	
1	教育活動の充実	①児童生徒一人一人の主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくり ②児童生徒の自立と社会参加を意識した指導内容の整理と指導方法の工夫 ③精神疾患や自閉症等、障害特性多様化への教育的対応の工夫 ④自立活動の指導内容・指導計画の整理と指導方法の工夫 ⑤特別の教科道徳の充実 ⑥特色ある教育活動の充実 ⑦児童会・生徒会活動の活性化の推進	・教育活動にあたっては安全面を十分に考慮し、活動の在り方を工夫改善し組織的に取り組むことにより充実させることができた。 ・「知的障害特別支援学校における内面の育ちを促す道徳科の授業」を研究テーマにした全校研究では、大学教授等による研修会や各学部における研究授業が計画的に実施され、授業改善と専門性向上が図られた。 ・長年取り組んできた活動を、新たな視点で見直し実態に合わせて改善することにより、児童生徒の積極的な社会参加の意識が高まった。	B	・熟議という形での話し合いがとともよかった。今年度は子どもたちの様子を知ることができたので、自分の意見を出しやすかった。熟議を経て自分の考えを変えたり、学校に合わせて考えることが楽しいと感じた。学校に対する考え方が変わるきっかけとなった。 ・各行事の在り方を含む教育課程の整備をさらに進める。 ・全校研究の成果と課題を次年度の取組につなげ、知的障害教育のさらなる充実を図る。

2	教職員の組織力の向上	<p>①学部、分掌内と学部、分掌間の連携強化 ②学部主任等連絡会の連絡調整機能による学校運営の総合的な推進力の向上 ③複数での業務遂行による組織としての力量向上 ④いじめや体罰のない明るい学校をめざして、全教職員の共通理解と協力体制による指導の徹底 ⑤「分掌ワークデー」の効果的活用による業務改善への取組 ⑥厨房等の大規模改修工事進行に対する理解と協力</p>	<p>・児童生徒や学習に関する教職員間の話題が増えた。これにより指導のねらいや手立てなどが見直され協力体制も強化された。 ・会議日を固定することにより合意形成が図られ、円滑な学校運営が推進された。 ・コーディネータ会議等により、児童生徒への指導が即時的かつ継続的に実施・改善され学部内及び学部間で共有された。 ・月40時間以上勤務する職員が多い状況であり、業務運営が効率的・効果的になされるようさらなる校務分掌等の見直しが求められる。</p>	B	<p>・学校教育において、先生方の存在は大きい。ワーク・ライフ・バランスを考えて取り組んでほしい。 ・教員の「やりがい」に関する質問で、1（できていないを）付と2（あまりできていない）付の人をあわせると15%になる。先生方にはやりがいをもってほしいと思っている。</p>	<p>・業務の平準化を図り円滑な運用を推進するとともに、分掌組織の連携や専門性向上をより一層進める。 ・業務改善の具体的な取組を進めるとともに個々の意識啓発を継続する。</p>
3	関係機関等との連携強化	<p>①よ保る護指者や施設等との連携による指導の充実 ②地域の資源を活用した教育活動の展開 ③校内外への情報発信力のさらなる強化</p>	<p>・参観日や連絡帳等を通して保護者・施設等との連携が行われた。 ・入所施設や放課後等サービスとの情報交換により、対象児童生徒の心身の安定につながる共通した指導や支援が行われた。 ・地域住民や近隣の民間事業所の協力による取組が定着し、児童生徒の実態に応じた工夫や改善が図られた。 ・学校だより等を定期的に発行するとともに、学校ホームページに進路や研修等に関することもアップし、積極的な情報発信により理解を得られるように努めた。</p>	B	<p>・地域を大事にした教育活動をおして自己肯定感の育成につなげてほしい。 “学校運営協議会において、教育課程の充実に関する提言をした。 ・時期、回数ともによかった。内容や方向性が定まっていたので参加しやすかった。</p>	<p>・保護者や地域関係機関との信頼関係をさらに強くする情報共有を行う。 ・積極的な情報発信を継続し保護者の安心感につながる情報提供を丁寧に行う。 ・提言を受けて具体的に取組を進めていく。</p>
(11) 総括	<p>「教職員による自己評価」20項目の平均評価点は3.2、「保護者アンケート」19項目の平均評価点は3.7、「学校関係者アンケート」20項目の平均評価点は3.9であった。全項目の達成度の平均が教職員92%、保護者98%、学校関係者97%であることから、今年度の教育活動については「おおむね適切に実施されている」と捉えることができる。 各学部・分掌による学校教育目標及び学校経営の重点における達成度は、B（概ね達成できた）となった。熟議のやり方や教員の「やりがい」、教育活動の充実に関して学校運営協議会の委員から意見や提言を受け、保護者の安心感につながるよう丁寧に次年度も行っていく。</p>					